

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 自然環境課長 齋藤 晃大 電話番号 0852-22-5346

事務事業の名称	自然公園管理事業	
目的	(1) 対象	自然公園の利用者
	(2) 意図	安全で快適な利用の確保を図る。
事業概要	県内の自然公園（国立公園、国定公園、県立自然公園）では、各公園計画に基づき、公園を利用するための施設（遊歩道、駐車場、公衆トイレなど）が整備されている。このうち、県が整備他施設について、安全快適に供用するため、地元市町村に日常管理を委託し、破損及び老朽化施設を維持修繕する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	自然公園の利用者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		7,950	7,950	7,950	7,950	
式・定義	自然公園の利用者数		実績値	8,266	7,993	8,825	14,365		
			達成率		100.50	111.00	180.70		%
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費 (b) (千円)	117,086	113,395
うち一般財源 (千円)	60,911	16,995

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

自然公園内における県所管施設の維持修繕を行う一方、危険箇所については、通行止などの対応により、利用者の安全確保に努めた。また、パンフレットの配布、県ホームページや県広報の活用により積極的にPR活動を行った。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

参考指標としている利用者数も目標を達成したことから、自然公園の安全で快適な利用の確保は図られた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

利用者や自然保護レンジャーから、施設の破損や不具合の苦情・連絡が多い。

②困っている状況が発生している「原因」

過去に整備した施設の老朽化が進んでいる。

③原因を解消するための「課題」

- 古い施設が多い
- 予算的、体制的に十分でないことから、完璧な維持修繕ができない。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を進める。
- 老朽化の状況や利用頻度等から判断し、不要な施設は撤去又は地元市町村へ譲渡する。
- 利用者や自然保護レンジャーによる整備を支援する

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）